

岩手大学教育学部附属特別支援学校

研究テーマ

児童生徒一人一人が今、
主体的に活動できる授業づくり
—観点別評価の取り組みを通して—
(2年次研究の2年目)

1 校内研究

(1) 研究の目的

観点別評価を生かし、児童生徒の「主体的に活動する姿」を目指した授業づくりの深化を図る。

(2) 研究の内容と方法

- ① 「授業づくりの視点」に基づいた授業づくり、PDCAサイクルで授業改善を行い、授業実践を重ねる。
- ② 「主体的に活動する姿」の具体的な評価が新学習指導要領で示された「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3観点で整理できると確認したことから、観点ごとに目標を設定し、評価するのではなく、「主体的に活動する姿」を目標にし、評価したものを観点別に整理する。

(3) 研究の実際(2年次)

- ① 本校が目指す「主体的に活動する姿」は学校教育目標から学部目標、単元目標、日々の授業につながっており、一貫性と連続性があることを確認した。「観点別評価シート」を活用し、前単元の学習評価から設定した単元目標や日々の授業の目標は、児童生徒個々の実態に即した目標であり、「主体的に活動する姿」であることを授業者間で確認し、共有した。また、本時の個人目標もより実態に即して設定されるようにした。

- ② 一人の教師の視点による評価でなく複数の教師で児童生徒の姿を多面的に評価することが評価の客観性を高めると考え、必ず複数で評価することとした。

③ 観点別評価シートを活用した授業実践

○全校授業研究会

- ・小学部(7月) 1・2年 遊びの指導
単元名「みんなでゴーゴー! わくわくひろば」
- ・中学部(6月) 作業学習 石けん班

単元名「石けん作業Ⅲ:肴町商店街で販売しよう～みんなで石けん150本作ろう～」

- ・高等部(7月) 作業学習 手織班

単元名「織り物製品を製作しよう ～7月ガンフ工房販売会で販売しよう～」

(4) 研究のまとめ

観点別評価により、授業改善だけでなく児童生徒の実態に即した目標設定、有効な支援の積み重ねができた。また、授業者間で観点別評価を行うことで児童生徒の学習状況や「主体的に活動する姿」、有効な支援について共通認識をもって授業づくりに臨めるようになった。今後は、主体的に活動できる場面が広がるように学習評価を年間指導計画等の改善につなげていきたい。また、個別の指導計画と関連付けを図り、実用的な評価として活用したい。

※第22回学校公開研究会

期日:令和元年9月28日(土)

内容:授業公開、情報交換会、各学部分科会、講演会

演題:子どもが生き生きと力を発揮する魅力ある授業づくり

講師:植草学園大学発達支援教育学科
教授 名古屋 恒彦 氏

2 講演会

演題:「知的障害特別支援学校・学級における授業づくり ～新学習指導要領の方向性を踏まえて～」

講師:植草学園短期大学 福祉学科
教授 佐藤 慎二 氏

期日:令和元年12月26日(木)

3 研修会

○研修報告会

- ・福島大学附属特別支援学校公開
- ・北海道教育大学附属特別支援学校公開
- ・京都教育大学附属特別支援学校公開
- ・第51回WISC-IV知能検査講習会

4 刊行物 研究集録は刊行していません ホームページにて公開予定